

2019年全日本カート選手権 FS-125部門/FP-3部門 西地域第1戦 2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門 西地域第1戦 [JAF公認No.2019-3501]

開催日：3月30～31日 開催場所：琵琶湖スポーツランド 格式：国内/準国内 主催：BSL [団体登録No.公認82501]

フォト/山口貴利 レポート/水谷一夫

今年から全日本の冠がついたFP-3部門。参戦した選手の年齢層はバラバラながら、老若男女問わない白熱したレース展開となった。



18台がエントリーした“全日本”FP-3西地域は坂裕之が優勝!

全

日本カート選手権2019シリーズの開幕を迎えた、花冷えの琵琶湖スポーツランド。空からは雨が断続的に降り、路面は濡れたり乾いたりを繰り返す。この気まぐれな天候が、レースの行方を大きく左右することとなった。

16台が参加したFS-125部門の決勝。空は晴れ、コースはウェットというスタート時の状況に、1台がスリックタイヤを選択したが、このギャンブルは裏目に。勝負権はレインタイヤ勢が握ることとなった。

この日最速の存在は、嶋田隼人選手だった。予選を独走で制した嶋田選手は、決勝でも1周目から後続を引き離し、4周目にはリードを3秒以上に上げてみせた。だが、嶋田選手は6周目にチェーンが外れてストップ。抜群の速さを勝利につなげることはできなかった。

代わってトップに立ったのは、この部門2年目の居附明利選手だ。湿ったままのコースを巧みに走り、後続を危険な距離に接近させないまま26周を駆け抜けて通算2勝目を果たした。「去年の開幕戦ではガチガチに緊張したけれど、

今年は落ち着いて走れています」と居附選手。精神面が充実した今季は、飛躍の気配だ。

それに続いてフィニッシュしたのは、地元勢の植田晴斗選手。ドライの予選では苦戦したが、決勝では濡れたコースを味方に11番グリッドからグイグイと順位を上げ、14歳の全日本デビュー戦を2位獲得へと結実させた。

3位は橙持楓選手だ。全日本のレースは昨年5戦に続く2度目ながら、タイムトライアルでは見事トップに。決勝では「路面が乾いてきたらラインがぜんぜん分からなくなった」と



1.FS-125部門の西地域に参戦の皆さん。2.FP-3部門の西地域に参戦の皆さん。3.FP-Jr部門の西地域に参戦の皆さん。4.FP-JrCadets部門の西地域に参戦の皆さん。



FS-125部門 / 5.FS-125部門入賞の皆さん。6.予選11番手から追いつけたものの悔しさが残る2位の植田晴斗選手。7.登壇観選手はタイムトライアルでは好調だったが3位入賞。8.後続の追い上げに落ち着いて逃げ切った居府明利選手が1位でチェッカーを受けた。



FP-3部門 / 9.ベテランの坂裕之選手が、全日本FP-3の記念すべき最初の優勝を掴み取った。10.15歳の伊藤僚我選手が堂々の2位入賞で嬉しい表彰台に。11.終盤でスピンを喫したのが悔やまれる藤井亮輔選手が3位となった。12.FP-3部門入賞の皆さん。

苦しみながら、最後まで3番手をキープして表彰台の一角を占めることに成功した。

FP-3部門は、今回が全日本選手権として行われる初めてのレースだ。その出走台数は18台。地方選手権として行われていた昨年までの同部門は、出走台数がひと桁の大会が多かったのだが、全日本となった今回は大幅増となった。

決勝のスターティンググリッドでは、6台がスリックタイヤをチョイス。さっきまでしっかりと濡れていた路面は日差しに照らされ、スタート進行の間にもどんどん乾いていく。かくしてレースは、スリック勢の6名が上位6席を占拠

することとなった。

スリック勢の最上位、4番グリッドからスタートした坂裕之選手は、1周目のうちにレインタイヤ勢3台をかわしてトップに躍り出ると、ピットレーンの仲間に向けてピースサインを送る余裕さえ見せた。ところが、そこに7番グリッドの藤井亮輔選手と9番グリッドの伊藤僚我選手が急接近。レース中盤には藤井選手が坂選手をパスして先頭に立った。

だが、ここで再び小雨が降り始めた。シャシーのセッティングが一部ウェット仕様のままだった坂選手は、濡れていくコースで速さを取り

戻し、藤井選手を抜き返すと一気に独走。48歳のベテランが“全日本”FP-3の最初のウィナーとなった。

「全日本かどうかは気にしていなかったけれど、FP-3は参加したいレースのひとつです」と、坂選手は笑顔で語った。

伊藤選手は坂選手といっしょに藤井選手をかわして、2位でフィニッシュ。藤井選手は勝利こそ逃したものの、JAF選手権のデビュー戦を3位表彰台で締め括った。なお“ウェットタイヤ部門”では、52歳の大野弘志選手が7位でチェッカーを受けて最上位となった。



FP-Jr部門 / 決勝はウェットレース。13.予選ヒートでフロントフェアリングのペナルティを受けて11番グリッドに埋もれた井田頼希選手が大躍進。前の10台を7周ですべて抜き去ると、残る周囲を独走して初優勝を果たした。14.レース中盤までじっと耐えた小椋梓選手が2番手争いを制してフィニッシュ。15.序盤でトップ争いに躍り出たものの、雨のコンディションでタイムを落とした加藤大翔選手が3位入賞。16.FP-Jr部門入賞の皆さん。



FP-Jr Cadets部門 / 決勝は全車スリックタイヤを履いてのレースに。17.トップを争う2台が最終ラップに接触してストップとなり、3番手を走っていた松本琉輝選手が、残り3分の1周でトップに立ちウィナーとなった。18.スタートをうまく切れた伊藤聖七選手が攻めの走りに徹して2位を獲得。19.佐藤こころ選手は一時5番手まで順位をドロップしたが、粘りの走りで後半に挽回して3位入賞となった。20.FP-Jr Cadets部門入賞の皆さん。